

人生の マイルストーン

Milestone in your life

熊本市長
大西 一史

Kazufumi Onishi
1967 (昭和 42) 年 12 月 9 日生まれ、47 歳。
熊本北高校→日本大学文理学部卒。九州
大学大学院修了。日大卒業後、日商岩井
メカトロニクス勤務を経て、94 年国田博
之衆院議員秘書。97 年県議補選で初当選
し、5 期連続。2014 年 11 月の熊本市長
選で初当選

政治への道標となった、

反抗、挫折、そして出会い。

— 政治の道に入られて約 20 年ですが、政治家を目指すきっかけは何だったのですか。

初めて政治を身近に感じたのは、父（故 靖一さん）が熊本市で県議選に出馬した時です。私は小学校 5 年生の時で、父は落選したのですが、お祭り騒ぎのような選挙の雰囲気を感じましたし、家族も巻き込まれた状況も分かりました。高校入学の春に父が再挑戦して当選してからは「県議の息子」として見られることが多くなりましたね。

当時、「自分は大西県議の息子さんではなく、大西一史なんだ」という思いもあって、全く違う世界に憧れていました。そこで、自分の力でできることを考え、音楽に夢中になりました。一生懸命にドラムを練習して、プロを目指していました。

— 親や政治に反発する気持ちが強かったと。

そうです。父の世界と真逆の世界に行こうと思って、ドラムを一生懸命に練習して、レコード会社

のオーディションを受けてグランプリをもらったこともありました。ただ、大学で東京に行き、プロの世界を見る機会がありました。が、ひとつの技術や才能で、日本や世界の一流で活躍し続けることがいかに大変か分かりました。演奏が上手い人は沢山いて、その人たちは死ぬほど練習し、努力し、しのぎを削っている。そのような姿を目の当たりにして「勝てるはずがない」とショックを受けましたね。

当時の私は精神的に甘えているところがあって、「いざとなれば親がなんとかしてくれるだろう」という考えがあったのだと思います。それから、学生という身分もありました。「プロになりたい」と思いながら、精神的にはプロフェッショナルではない。逃げ場がいつもあるような感じでした。

— 学生時代、アメリカにも行かれていますね。

アメリカ各地でドラムスティックを握りしめて、いろんなライブハウスを訪ね、演奏しました。ライブハウスでは「いい度胸してい